

(別添4)

【宮城県 山元町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」に記載されている内容を踏まえ、本町としてこれから目指す学びの姿を2点挙げる。

1点目は、答申の表題にもある「個別最適な学びと協働的な学び」の実現である。これを実現するためには、各小中学校において、児童生徒が日常的にタブレット端末を道具の1つとして使用していく環境を推進していくことが求められる。ただし、ICTの活用が目的となるのではなく、教師の対面指導の重要性を再認識するとともに、タブレット端末を活用した学習活動（クラウドサービスの利用、オンライン学習等）など、それぞれの良さを組み合わせた学習のハイブリット化を実現することが必要である。

特に、次年度から町内4小学校・1中学校の共同研究として国語を取り上げ「個別最適な学びと、協働的な学び」の実践研究を行う予定である。その中でICT機器を活用し、互いの考えを伝え合い、学び合う姿を目指すことになる。

2点目は、「主体的、対話的で深い学び」の実現である。これを実現するためには、タブレット端末を活用して児童生徒が学習の中で、対面、オンラインを問わず学習に取り組み、様々なツールを用いて互いの考えを練り合わせるなどの過程が必要となってくる。児童生徒がICTを日常的に使用することで、自ら見通しを立てたり、新たな学習方法を見いだしたり、発展的な学習に取り組んだりすることができる。

これらを実現するための施策の一つとして、ICT教育の推進は欠かすことのできないものである。

2 GIGA第1期の総括

本町では、GIGAスクール構想の下、令和2年度に町立小・中学校（4小学校、1中学校）の児童・生徒1人1台端末等の整備を完了した。

はじめに主な成果としては、以下の点があげられる。

- (1) ICTインフラの整備としては、学校でタブレット端末とインターネット回線が整備され、教育のデジタル化が大きく進んだ。
- (2) 教育の質の向上としては、教職員がICTを活用することで、授業の多様化や個別学習の促進が進み、特に学習進度に差がある児童・生徒への対応が可能環境になった。
- (3) 生徒のICTリテラシー向上としては、端末を日常的に使用することで、児童・生徒のデジタルスキルが向上し、将来的なICT活用に対する土台が築かれつつある。

- (4) ICT支援員の導入により、各学校の教職員に対して、情報セキュリティ研修やアプリケーション、タブレット端末操作に関する研修が行える環境を整え、教職員のスキルが年々着実に向上した。

次に、課題としては、以下の点があげられる。

- (1) 各学校で端末の活用のばらつきが見られた。例えば、AI型ドリルの導入をするも学校によって端末の持ち帰り学習の実施状況に差があり、活用頻度が向上しない。
- (2) 教職員間でタブレット端末の活用頻度に差が見られた。具体的には苦手な教職員は研修を実施するも、研修内容についていくことが精一杯となり、研修内容が身に付きにくく、活用頻度が上がらない。

これらの課題を解決するため、GIGA第1期後半の令和5年度、令和6年度においては、各学校間での取り組みや研修状況などについて、情報共有する場として、各学校のICT担当者による担当者会議をより活性化させ、各学校の実践例の紹介やICT活用を推進していく中で、課題となっていることを解決できる機会を増やした。このように他校の実践例や意見交換をする場を確保し、自校へ持ち帰りスモールステップでの取り組みができる環境を維持していくことが大切である。

3 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

(1) 「1人1台端末の積極的活用」

研修や町内各校の情報担当の教職員内で情報共有の場を作っていくことで、各学校の端末活用に関する課題を解決し、どの学校においても積極的に端末を活用できる環境を作る。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

これまでも行ってきた学習支援ソフトを活用した授業に加え、引き続き継続導入していくAI型デジタルドリルの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した個別最適な学びを充実させる。

また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

更に、次年度から町内4小学校・1中学校が共同研究として、国語の実践研究に取り組むこととしている。その中では、「個別最適な学び、協働的な学び」を取り上げ、子どもたちが主体的に学習に取り組み、互いに学び合い、高め合う授業を目指すことになり、ICT機器の活用は必要不可欠なものとなると考えている。

(3) 「学びの保障」

各学校において、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、不登校等により長期欠席をする児童・生徒に対して授業配信等の検討を行い、GIGA第2期においても、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童・生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用していく。